R2. 7.12（日）　北國新聞　石川南（24）

◆小松高生が自由研究

小松市のサイエンスヒルズこまつで11日、小松高生が講師を務める体験教室が開かれ、同校理化部、生物部の生徒約20人が児童9人に夏休みの自由研究テーマの参考になる実験を紹介した。生徒は、重曹とクエン酸を混ぜると二酸化炭素が発生する仕組みを生かして、風船を膨らませる実験などを解説した。

◆大人が分子模型作る

サイエンスヒルズこまつ（小松市）の「大人のための体験教室」は同館で開かれ、参加者6人が香りをテーマに分子模型を作り、科学に理解を深めた。同館職員のサイエンスアドバイザー貝田明さんが、匂いを感じる仕組みを解説した。参加者は発泡スチロール製の球体を組み合わせて、果実の香りを持つ酪酸エチルや、メントールの分子模型を形作った。